

図書室だより 10月号



平成 28 年 10 月 3 日
春日部市立東中学校

学校の木々が秋の色に染まり始めました。厳しかった残暑もやわらぎ、爽やかな季節となりました。食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、と何をするにも良い季節ですね。暑さから開放された、心地よい季節、ぜひともゆっくり読みたかった本にチャレンジしてみてください。虫の音（ね）に耳を傾けながら、秋の夜長にじっくり本を読んでみるのも素敵ですね。図書室には、お待ちかねの新作本が、ぞくぞく届きはじめています。この機会にたくさんのお本にふれてください。（ハロウィンの本もあります）



うれしいお知らせです。

新作本が図書室に入りました。

一部、ご紹介します。是非、手にとって読んでみてください。



- ◇ 『塔の上のラプンツェル』（18年間、外の世界を知らずに、深い森の奥の塔の中で暮らしてきた美しい少女ラプンツェル。大泥棒フリンとの出会いをきっかけに、未知の世界への旅が始まります。ディズニーが贈る、グリム童話から誕生した新しい物語。）
- ◇ 『5分後に意外な結末』（古今東西の「意外な結末」がある話を集めた短編集。各お話が5分ほどで読めるため、本が苦手な子にぴったりの本。推理小説とは少し違います。「星新一」の短編が好きな人にもおすすめです。『3分後に意外な結末』もあります。）
- ◇ 『いるのいないの』（おばあさんの古い家で暮らすことになった“ぼく”。ある日梁の上にじっと見つめる男の顔があることに気づく。ラスト1ページは衝撃的。怖い。本当に怖い。怪談絵本シリーズの1冊。他の怪談も怖いです。涼しくなります。）
- ◇ 『リアル鬼ごっこ』（西暦3000年。人口一億人。佐藤という姓を持ったひとは、二十人に一人という時代。百五十代目の王がゲームを考えた。七日間、毎日夜の一時間鬼ごっこをする。佐藤という人が逃げる。鬼に捕まったら、殺される。七日間逃げ切ったら、褒美が出される。というもの。さて、五百万人いた佐藤は何人生き残れるか？）
- ◇ 『中学生までに読んでおきたい日本文学』（日本の有名作家が著した名作短編をテーマごとにまとめたシリーズです。どの作品も中学生までに読んでおきたいおススメの短編ばかりです。教科書に載っているお話もあります。）
- ◇ 『パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々』（オリンポスの神ポセイドンの息子、パーシーにかせられた予言の刻限まであと一年。世界を滅ぼそうとするルーク、ルークを想うアナベス、パーシーを恨むハデスの息子ニコソして、ついに復活しようとするクロノス。怪物の軍勢を阻止するために、迷宮ラビリントスへ足を踏み入れたパーシーの運命は？アメリカのミステリー作家による異色ファンタジー。）
- ◇ 『マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』（タリバンに撃たれてもなお、女の子が学校に通う権利を訴えた「マララ」の手記です。ノーベル平和賞受賞の本です。）

- ◇ 『佐賀のがばいばあちゃん』（「島田 洋七の自伝。」拾うものはあっても捨てるものはない。という方針の素晴らしさ。専属スーパーマーケットでよく獲れていたエビとは？遠足の日、水筒の代わりに持っていき皆の人気者になったものとは？笑えるばあちゃんの知恵の数々です。かしこくなった気がします。）
- ◇ 『キャッチ 2005年4月25日におきた脱線事故が教えてくれたもの』（人はいつ死ぬかわかりません。明日かも知れないし、20年後かも知れない。死にさえしなければ、この世界には無限の可能性が広がっている。あきらめずに一步を踏み出したい。今だからこそあの事故に意味があったと思えるのかもしれない。後遺症によってできなくなったことは、山のように。できないことを嘆かず力強く生きていこうとする少女の自伝。）
- ◇ 『妖怪アパートの幽雅な食卓』（妖怪アパートによろこそ。作者が亡くなってしまい、シリーズでははやりませんが、皆で妖怪アパートに遊びにいきませんか？）
- ◇ 『ツナグ』（一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「(死者) ツナグ」。ツナグの仲介のもと再会した生者と死者。それぞれの想いをかかえた一夜の邂逅(かいこう)は、何をもちたらすのだろうか。心の隅々に染み入る感動物語、そして、ちょっとミステリーなお話です。）
- ◇ 『青の炎』（櫛森「くしもり」秀一は、17歳の高校生。母と妹の三人暮らし。平和な家庭を踏みこじらる闖入(ちんにゅう)者が現れた。母が10年前、再婚しすぐに別れた男だった。男は、家に居座って家族を苦しめた。警察も法律も家族の幸せを取り返してはくれないことを知った秀一は決意する。自らの手で解決することを・・・家族を思う少年の暴走する心を、サスペンスフルに描く！)
- ◇ 『石のラジオ』（「昭和20年8月15日。正午過ぎ。大日本帝国南のはずれの島の、太平洋に面した洞窟の中で少年が死にました。」と始まる物語。飢えて死んでいく少年の耳に、鉱石ラジオのレーザーから終戦を告げる玉音放送が響く。約20万人の死者を出した沖縄戦。地形を変えたと言われるほどの艦砲射撃弾の恐ろしさ。「戦争で、最もひどい目に遭うのは、子供たちだ。」とメッセージを贈っています。「米倉齊加年(よねくらまさかね)」の「おとなになれなかった弟たちへ」と通じるものがある絵本。）
- ◇ 『吟遊詩人 ビードルの物語』（「ハリー・ポッター」シリーズに登場したあの童話集が、人間界に届きました。魔法族の子供なら、誰もが知っている古いおとぎ話です。嬉しくなる話、笑いたくなる話、ドキドキする危険な話など、それぞれに趣(おもむき)の違う魔法界の書籍です。作者のイラストもとても素敵です。）
- ◇ 『罪の余白』（どうしよう、お父さん、わたし、死んでしまう・・・安藤の娘、加奈が学校で転落死した。なぜ娘は亡くなったのか？事件か、事故か。亡くなった娘の親友は悪魔でした。衝撃の事実が父の心を悪魔の心と変える。究極の心理サスペンス。）

ほかにも、たくさんの本が入荷しました。図書室にきて、自分の手で本のページを1枚ずつ繰る楽しさやドキドキの感動を感じてください。そして、1冊の本を2人で読み、その感動を述べ合うことができたら、ちょっとしたアクティブ・ラーニングになるのではないのでしょうか？背伸びをして、難しい本を読むことにもチャレンジしてみてください。友達同士で自慢しあってみるとよいと思います。図書室でお待ちしています。

